

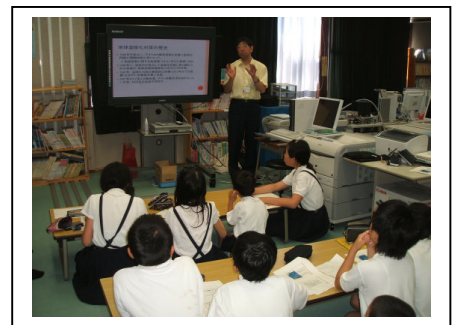
平成21年度「金沢ユネスコ・スクール推進事業」実施報告書・各学年情報シート			
学校番号	44	学校名	金沢市立朝日小学校
学年	6年	テーマ	環境教育

環境破壊と私達にできること
～朝日と温暖化～

1 主な学習内容

朝日地区は自然が豊かであり、ともすれば環境破壊など起きていないように見える地域である。しかし、竹林の増加や生態系の変化等少しずつ朝日の環境は変化している。6年生はそのことに気づき、児童が自分達にできることが何かを考え、実行し、それらの経験を発信することを目的に学習を行うこととした。

4月に現在地球上で起こっている環境破壊にはどのようなものがあるのかをビデオをもとに学習した。その中から児童は朝日との関連のある問題がどれかを話し合い、温暖化について1年間を通して学習していくこととした。温暖化の原因や生き物に与える影響については本やインターネットを用いて調べた。また、金沢大学の鈴木克徳教授を講師に迎え、温暖化が人の生活にどのような影響を与えるのか話を聞かせていただいた。人の生活で発生した二酸化炭素が環境に大きな影響を与えていることを知った児童は驚きの表情を見せていた。



調べていく中で里山が温暖化を防ぐことと関係していることが分かった。さらに調べていくと、里山の木々が重要な要素であることが分かり、金沢市森づくり専門員の塩見貴正氏を講師に迎え、金沢市の造成林における木々の育て方や木々の生長と二酸化炭素の吸収量との関係、外国産の木材を使うよりも地元の木材を使う方が二酸化炭素の発生量が少ないことなどを学んだ。また、保護者であり、一級建築士の岡本義富氏を講師に迎え、家と木との関係やエコハウスについての話を聞かせていただいた。木の生長具合によって二酸化炭素の吸収量が違うことや木がもたらす効果について知った児童は木の大切さを感じ、木を家に用いることで二酸化炭素を固定できることを知った時は普段何気なく見ていた家の中の木に対する意識を変えていった。

1年間を通して学んだことを学習発表会で、パワーポイントや新聞にまとめて発表した。また、実際に学習で用いたものを展示し、実際に手にとってもらえるようにした。さらに、実験を行い、森林が水を溜める働きがあることを視覚的に伝えることができた。

現在は木を生かした卒業制作（本棚やセロハンテープの台、卓上カレンダー）に取り組み、学校の先生や下の学年の児童に使ってもらうことで、木の良さを感じてもらおうとしている。また、これからの家造りには環境との関わりが必要なのだと訴えるために、エコハウスについて調べたことをまとめ、学校ホームページに掲載できるようにしている。



2 持続発展教育の視点

前期に温暖化問題に対して、児童でもできる様々な取り組みを調べ、実際に行ったものの、成果が目に見えるものとして、すぐに表れるわけではないため、児童の中での満足感を高めることが難しかった。

そこで後期は視点を変え、形として見える温暖化への取り組みとして、木材の利用を主題とした。石油を原料とした原材料を用いる代わりに、国内産の木材を用いることで二酸化炭素の発生が抑えられることやそうした木材を生かしたエコハウスと呼ばれるものがあることを知り、実際に木材を用いて、プラスチックでできているようなものを作ることで児童の中の「自分でも温暖化問題の解決に取り組めるのだ」という意識は高まった。